

# 当院での適正な透析監視装置洗浄の検討

手川和久<sup>1)</sup> 後藤和宏<sup>1)</sup> 山田眞由美<sup>1)</sup>

菅野義彦<sup>2)</sup>

東京医科大学 臨床工学部<sup>1)</sup>

東京医科大学 腎臓内科学分野<sup>2)</sup>

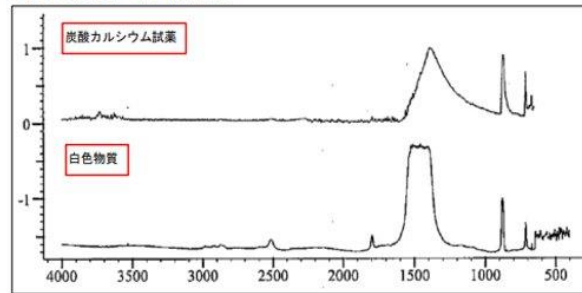
2019年7月の新棟開院に伴う透析室移転以降、透析用監視装置で使用しているエンドキシン補足フィルタ endotoxin retentive filter(以下 ETRF )にて抵抗値の上昇を認め、早期に ETRF 交換を要した。

複数の透析装置で発生したことから施設環境に起因しているのではないかと考え、透析装置製造業者と検討を行った。抵抗値の上昇を認めた ETRF を精査したところ、炭酸カルシウムスケール(以下炭カル S)の沈着により、目詰まりしていることが示唆された。(図1 図2)



(図1 ETRF から回収した沈着物)

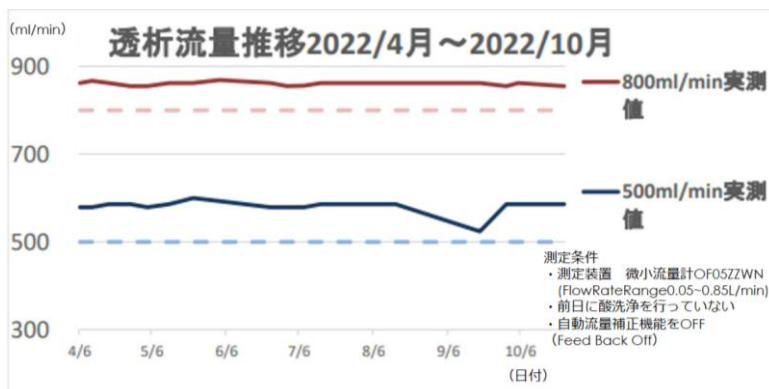
## ● 白色物質の分析結果



(図2 沈着物に対するフーリエ変換型赤外分光光度計による解析)

洗浄工程中の炭カル S 除去が不足していると考え、炭カル S 除去剤の希釈率と洗浄時間、1週間あたりの洗浄回数の検討を行ったが、問題は認めなかった。

次に炭カル S 除去剤の検討を行い、他施設で使用実績のあるサンフリー®L (アムテック株式会社)に変更した。半年間の試用を行ったが抵抗値の上昇及び透析液流量の低下は認めなかった。(図3)



(図3 透析流量推移)

サンフリー®L は液体をそのまま洗浄剤原液とするが、変更前の洗浄剤は粉末タイプで手動で溶解し洗浄剤原液としていた。そのため、溶け残り等で洗浄剤原液の濃度が安定していなかった可能性が推測される。

現在は炭カル S 除去剤の費用検討を行い、濃度を下げ試用している。6 か月経過時点でも抵抗値の上昇は認めなかった。